

山城跡を訪ねる R2.3.26

黒井城址（猪ノ口山）～八上城址（高城山）

旗振支部 林 洋治

大河ドラマ「麒麟がくる」丹波地方が一躍脚光を浴びている。3月26日、暖かな日差しに誘われて、山歩きと歴史探索を兼ね両座へ。

黒井城（猪ノ口山 356m）は、光秀が丹波攻略で一番苦戦した城。丹波の雄赤井悪右衛門直正が猪ノ口山を本丸に3方に張り出した尾根筋に曲輪・砦を配置した堅固な一大要塞。今は石垣のみだが当時の館が並んだ雄姿は壮観だったろうな。



猪ノ口山（黒井城址）の雄姿

登山口は、麓の興禅寺裏。興禅寺は直正が平時住居として使用していた下館。後の光秀統治時、光秀配下の斎藤利三が陣屋に利用していた。利三の娘お福が三代将軍家光の乳母、大奥春日局となった逸話はあまりにも有名。



興禅寺
野面石積の石垣、白壁、惣門などが当時の面影を残す。

もう十何年も前、福知山マラソンの帰り友人とこの近くに泊り、登った。当時はほとんど整備されてなく、山頂だけ樹木が伐採されただけだった。

今回、訪れると登山道は良く整備され歩きやすい。小一時間ほど



で山頂。山頂からの眺めが素晴らしく、丹波氷上郡が一望に見渡せる。山頂に

立つと、このあたり一帯を掌握した気分になる。

山頂には保月城址とある。黒井城とばかり呼ばれ、保月城の説明がないの



でその由来はわからないが、きっと中秋の名月時には素晴らしい観月ができるのだろう。

織田信長の命を受け、光秀が丹波平定を目指し、ここの第一次合戦では、光秀の同盟関係にあった次に訪れる丹波篠山八上城の波多野秀治が赤井直正に呼応し、前後から攻められ命からがら敗走。

二次合戦で光秀は、八上城平定した後、用意周到に責め立てる。また直正が前年病没していたこともあり、光秀の大軍の前に堅固を誇った黒井城も落城したとある。



山頂の桜がまさに開花寸前。



麓を流れる黒井川河畔の立派に整備されている桜堤。同所で例年盛大に開催されている桜祭りも今年は、新型コロナウイルスで中止。来年は、丹波の桜を堪能しよう。山頂で、おばあちゃんの里で求めたお弁当を丹波の殿様気分です！

午後、向かった八上城址（高城山 460m）は、その姿から丹波富士とも呼ばれている。



高城山の雄姿

黒井城址に比べ今まで観光に力点を置いていなかったようだ。案内板も少なく、カーナビにも表示がなく、駐車場も急ごしらえ。だが、登山道は以前から整備されていたようで、擬木の並んだ道は緩やかで歩きやすい。ここも猪ノ口山と同様、小一時間で登れた。



山頂付近は、最近見晴らしをよくするため樹木が伐採されたらしく、杉の大木がゴロゴロ転がっていた。勿体ないな～、何か利用価値はなかったのかな～と、小人の吝嗇の考えが沸く。それに桜木が一本もない。観光に配慮していたらもう少し訪れる人が多かったのでは。さすがに樹木を伐採しただけあって、頂上からの展望は絶景。多紀郡盆地が一望、篠山城も指呼の間。

山頂に戦前、毛利家から贈られた波多野秀治公の表忠碑があった。両者の結びつきの深さだろう。暫し篠山の景観を楽しみ下山。



秀治公表忠碑

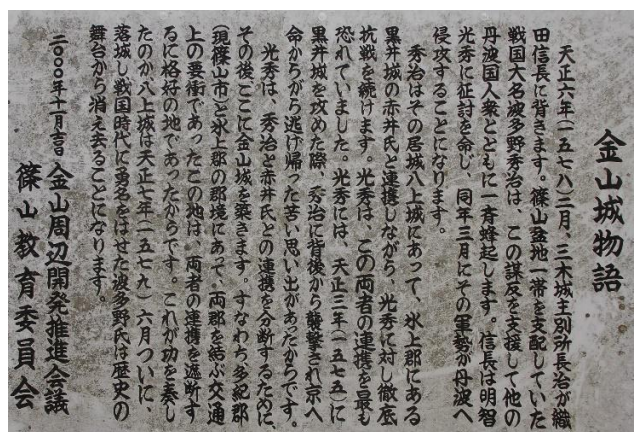


途中、光秀の母（お牧の方）の「磔松」の表示がある。降伏した秀治を信長の命により処刑したことを家臣たちが怒り処刑したとの伝説。

だが異説もある。光秀は、4万の大軍で包囲し、兵糧攻め。あえて母を人質に出すほどのこともなかりうと。ドラマでどう再現されるか楽しみ。

今回散策の5年ほど前、鬼の架け橋で有名な金山に登った。その時は、漫然と眺めていたのだが、この金山（金山城）こそが光秀の秘策。

前回、赤井軍と波多野軍との挟み撃ちにあったのでこれに懲り、両者を結ぶ唯一無二の峠道、鐘ヶ坂を抑えるために造った山城。金山から両座が良く見える。



山と歴史、学べば、山歩きが楽しくなる。花は、金山で見かけたあけぼの草、戦国武者に捧げよう。

